

次代を担う若き演奏家を支援する ライジングスター・プロジェクト始動！

関西・大阪21世紀協会×関西フィルハーモニー管弦楽団 共催事業

Supported by トヨタモビリティ新大阪



撮影：樋川智昭

関西・大阪21世紀協会は、関西フィルハーモニー管弦楽団（以下、関西フィル）との共催により、次代を担う若手演奏家を発掘・育成する「ライジングスター・プロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトは、トヨタモビリティ新大阪株式会社（大阪市淀川区東三国・久保行央社長）から、関西の若手クラシック演奏家の支援を目的として当協会に託された寄付を活用して実施しているプロジェクトの第3弾。その名のとおり、将来有望な関西ゆかりの若い演奏家を公募し、厳正なオーディションを通じて、関西を代表するオーケストラである関西フィルのフルオーケストラと協演する機会を提供するという一大企画です。

才能あふれる関西の若手演奏家に成長のチャンス

舞台となるのは、関西フィルと首席指揮者の藤岡幸夫氏がクラシック音楽の裾野を広げるため長年取り組んでいる「Meet the Classic」シリーズの第49回公演（2025年8月11日開催／会場：住友生命いずみホール）。

本年4月から2カ月にわたって公募を行い、書類と動画による1次審査、実演審査による最終審査を経て、十河七海さん（京都市・27歳／コントラバス）、林成さん（京都府宇治市・14歳／チェロ）、大屋響さん（大阪府枚方市・16歳／ヴァイオリン）（演奏順）が、将来有望なスター候補として関西フィルとの夢の舞台に立つ栄冠を勝ち取りました。

そこで、公募開始に先立ち開催した記者会見を中心に、当プロジェクトの概要をご紹介します。



「ライジングスター・プロジェクト」記者会見のようす
（2024年3月11日／門真市民文化会館）

若き演奏家の飛躍と関西・大阪の文化振興を期待

当協会はトヨタモビリティ新大阪からの寄付をもとに、才能豊かな若い演奏家たちに対する活躍の場の創出と、クラシック音楽の裾野を広げて地域社会に貢献することを目的に、3つのプロジェクトを展開しています。

1つ目は、アーツサポート関西「トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金」。当協会の助成事業・アーツサポート

関西の助成制度を活用して、若手演奏家たちの芸術性の高い演奏活動や地域との交流を図るアウトリーチ活動を支援するものです。

2つ目は、トヨタモビリティ新大阪室内楽支援。プロとして歩み始めた演奏家のレベルアップを図るため、室内楽の技量や理解の向上を高水準で目指し、第一線で活躍する演奏家が指導するマスタークラス等を提供する事業者に対する支援です。



崎元利樹
関西・大阪21世紀協会
理事長



久保行央氏
トヨタモビリティ新大阪株式会社
代表取締役社長



大野英人氏
関西フィルハーモニー管弦楽団
常務理事・楽団長



藤岡幸夫氏
関西フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者

ライジングスター・プロジェクトの公募開始に先立つ今年3月11日、最終（実演）審査会場となる門真市民文化会館にて記者発表が行われ、プロジェクト主催者から、次代を担う若手演奏家の支援に向けた思いが語られました。

そして3つ目が、今回のライジングスター・プロジェクトです。

記者会見で当協会の崎元利樹理事長は「関西・大阪は非常に古い歴史があり、優れた文化を有する地域。関西フィルをはじめとする幾つものオーケストラがあり、関西から多くの演奏家が世界の舞台で活躍している」と関西文化の厚みをアピール。一方でクラシックファンの高齢化などの課題にも触れ、業界の活性化が必要と訴えました。そのうえで、先行する2つのプロジェクトがいずれも若い演奏家たちの情熱が伝わる充実した内容になっていることから、「当プロジェクトもその流れを受け、若い演奏家の皆さんはぜひ自らの成長に役立てるとともに、関西・大阪の文化の振興にも貢献してほしい」と期待を語りました。

経済の発展と文化の発展は車の両輪

トヨタモビリティ新大阪の久保行央社長がこうした支援をするきっかけになったのは、身近にいる若い演奏家たちから切実な悩みを聞いたこと。「コンサートを開き世の中によい演奏を届けたいが、演奏活動だけでは資金的に苦しくアルバイトをせざるを得ない」。

同社の源流は大阪府和泉市で紡績業を営む久保惣株式会社で、先々代を中心に和泉市久保惣記念美術館に所蔵されている東洋古美術を収集していた関係で、久保社長は幼いころから文化芸術に興味があり、会社として長年、地域貢献にも力を入れてきた経緯があります。「彼らを直接資金援助するのは簡単だが、それだけでは文化支援・地域貢献にはならない。もっと広域的に何かできないか」と考えていた矢先、当協会からこのプロジェクトの声がけがあったとのこと。「経済と文化は社会の両輪であり、関西で若い演奏家を発掘・育成することは文化レベル向上につながり都市の魅力や社会貢献につながる」。今回の寄付にはそうした思いが込められています。

「当社は月に1度、若手のコンサートを開催している。ライジングスター・プロジェクトのみならず、独自の公演なども通じて今後も若い演奏家を側面的に応援していきたい」という久保社長の言葉には、文化芸術に対する熱い思いがあふれていました。

※P8～10「企業と文化」にインタビュー記事

応募資格に年齢の「下限」なし

関西フィル楽団長の久野英人氏は、このプロジェクトの応募資格について、楽器は30歳以下、声楽は35歳以下という上限はあるが、普通は20歳以上とされるような下限は設けていないことを強調。その上、関西元気文化圏の2府8県に在住・在学・在勤の経験があれば現在の活動拠点は問わないという門戸を広げた募集なので、「ぜひ多くの才能ある演奏家に応募してほしい」と呼びかけました。

真のライジングスターに舞台を提供

「若くて才能のある演奏家には、いきなり大きな舞台を与えるのが私のやり方。そういう意味でこのプロジェクトは私のポリシーに合っている。どんな人が応募してくれるか大変楽しみだ」と語るのは関西フィル首席指揮者の藤岡幸夫氏。「Meet the Classic」は藤岡氏が25年前、関西フィルに來た当初から続けてきたシリーズで、これまで超一流のソリストを数多く輩出しています。お客様がチケットを買って聴きに來られる大切な舞台だけに、「本当に才能があると認められる人がいなければ該当なしの場合も十分あるし、逆に複数のソリストを選ぶ可能性もある。だから、自分は絶対スターになるという気概のある人はぜひ気軽に応募してほしい。ただし、選考は気軽にはしません」と厳しくも力強いコメントを寄せました。

また、「関西の文化的な豊かさや才能あるアーティストが活躍する舞台のために、一企業がこれだけの支援をするのは他では見たことがないといえるでしょう」と久保社長に謝意を表しました。



Meet the Classic Vol.47で演奏する杉谷歩の佳さん（撮影：樋川智昭）